



病院削減反対と賃上げ要求のデモを行なう NHS スタッフ (2020/8/8、ロンドン)。
Phil Lewis/WENN/ 共同通信イメージズ

地域自治で、 グローバル資本主義を 包囲する

脆弱だったグローバル・サプライチェーン

新型コロナウイルスによるパンデミック以降、イギリスで、治療に当たっていた国民保健サービス(NHS)の医師、看護師、ケアスタッフが二〇〇人以上亡くなった。その多くはガウン、手袋、マスク、キャップなどの個人用防護具(PPE)があれば避けることができた死であった。問題は、この危機がなかったら、NHSの医療資材や機器の調達部門そのものが民営化されていた事実、多くの英国国民も世界も気が付きさえしなかっただろうということだ。

二〇〇六年より度重なるアウトソーシングを経た調達部門は、二〇一八年にNHSサプライチェーンという組織として再編された。NHSの一部として公的所有の形式を取

っているものの、実はその機能のほとんどが企業群にアウトソースされている。今回、「ウィー・オウン・イット(We Own It)」というイギリスの公共サービス民営化問題に厳しく切り込む少数精鋭NGOと研究者が共同調査を行ない、パンデミック危機下でPPEの供給が滞った原因を追究する詳細なレポートを発表した。

このレポートによると、NHSの物資購入には一分野の「タワー」が作られ、それぞれ巨大なアウトソース契約が結ばれていた。そのうちの四つはロジスティクス大手のDHLが担い、残りは二つの英民間企業、五つは英公営企業による。NHSはヨーロッパ最大の公的医療制度であり、その購買力は巨大である。「タワー」の基本的なアイデアは、全国二三〇〇に及ぶNHS病院が独自に、ある

岸本聡子

きしもと・さとこ アムステルダム の政策
研究NGOトランスナショナル研究所研究員と
して水と正義の権利運動に関わる。著書に『水
道、再び公営
化!』(集英
社新書)など。

いは各地方で行なっていた購入を一括で集権的に管理し効率化し、大胆な経費削減を図ることだった。しかし集権的といいつつ、細かく分かれた分野はそれぞれアウトソース契約でガチガチになって分断されている。そのためパンデミックが襲った時、政治や行政の指示系統も責任体制も不明確で、調整も働かなかつた。PPE不足が伝えられると、多くのコミュニティ団体などが供給や提供を申し出たが、政府もNHSもそれを生かすことすらできなかった。

人の健康と命に関わる医療の分野に企業の論理を持ち込み、効率化の名の下に不必要に複雑な仕組みを作り上げ、結果として無責任体制になってしまったNHSの調達。PPEなどを備蓄せずにその都度購入する「ジャストインタイム」方式が売りのグローバル・サプライチェーンはその弱さを露呈した。NHSの調達の共通原則は節約、削減、企業の利益ではなく、人々の命と安全が第一でなくてはならない。そうレポートは結論づけた。

公共財と公共サービスの脱民営化戦略

NHSは一例にすぎない。二〇〇八年の世界経済危機以降、ヨーロッパでは緊縮財政が正当化され、一〇年以上にもわたって社会保障費の削減、医療サービスのアウトソーシングや民営化が粛々と進行した。多くの国で経済の回復

は遅れ、賃金は低下し、特に若年層の仕事環境は厳しい。そこに新型コロナウイルスが襲った。パンデミックは緊縮財政や民営化がもたらす破壊的影響を明らかにしただけでなく、健康かつ危機に強い社会の基盤は、ケアを含めた多岐にわたる公共サービスとその従事者によって支えられていることをはっきりと示した。今私たちは、健康、経済、環境の危機を起こさないこと、そして起きてしまっても対応できるような公のあり方を考えなくてはならない。

その方法として私たちが再公営化に注目し始めて一〇年以上が経つ。再公営化とは、民間企業から公的事业へと公共サービスを取り戻すこと。より正確には、資産、運営権所有やサービスの民間企業へのアウトソーシング、官民連携(PPP)といった、様々な形で民営化された公共サービスを公的な所有、公的な管理、民主的なコントロールに戻す道筋のことである。水道民営化に対抗するNGOや労働組合が協力して調査を始めたところ、水道、電力、教育、医療・ケアサービス、廃棄物回収、自治体サービス、交通、情報通信サービスの八分野において、二〇一九年一二月時点で五八カ国、二四〇〇以上の自治体で、一四〇〇件以上の成功事例があることが明らかになった。なお、全事例の詳細を、スコットランドのグラスゴー大学の協力を得てデータベース化し、この六月に公開した。